

映画の冒頭で「国家が総力を挙げて作り上げる大きな嘘は、いつの時代でも見破ることは容易ではない」という字幕が映し出されます。

映画『山本慈昭「望郷の鐘」満蒙開拓団の落日』は、昭和20年5月に満蒙開拓団の教師として満州に渡り、8月9日のソ連参戦の中で妻子を失い、自らもシベリア抑留を経て帰国し、中国(旧満州)に残された残留孤児、残留婦人救出に生涯をかけた故山本慈昭師(長岳寺住職)の真実の物語です。

国策によって、27万人以上の人々が満州に開拓移民等として渡り、敗戦によって死の逃避行といわれるような、人間としての極限状況の中で多くの人々が犠牲になりました。

戦後70年戦争への記憶が薄れてしまっている今こそ、普通の国民が、戦争の被害者でもあり、加害者になってしまった満蒙開拓の現実をこの映画を通して知っていただきたいと思います。

主演の内藤剛志さんや子どもたちの熱演で素晴らしい映画となっています。(岡庭一雄・前阿智村長)



この映画に込めた思い

山田火砂子監督

私はちょうど軍国主義国家の日本の中で育ちました。一九四五年一三歳の頃、東京大空襲にあり、本当の戦争の怖さを目の当たりにしました。本能的に逃げているだけで、私は死んだも同然でした。この体験は昨日のこのように覚えていきます。

今、この事実が忘れられようとしています。これは私が、私たちが今、後世へ伝えなければならぬことなのです。そして、そんな時に会ったのが、この「望郷の鐘」だったのです。

私は信じられませんでした。昭和二十年の五月一日に満州に行く。日本は後三ヶ月で負けてしまうのに、なぜこんなことになってしまったのだろうかと思いつきました。この時から、この作品は私が映画化するのだと決めていました。

私は、今回戦争映画を作ったのではなく、平和映画を作りました。もつと悲惨なこともたくさんあるのですが、私は辛すぎてこれが精一杯でした。私は、この作品を今だから作るべき作品、今だから皆で観る作品だと思えます。どうかこの作品が一人でも多くの人の元に届くことを願っています。

次回作は三浦綾子原作「母」を製作いたします。応援宜しくお願い致します。



日本PTA全国協議会特別推薦 長野県社会福祉審議会児童福祉専門分科会推薦

製作・現代ぶろだくしょん 2014年 / 日本 / 102分・ビスタビジョン / カラー / http://www.gendaipro.com/bokyo_new/index_top.html

6月4日よりロードショー!!

〒320-0802 栃木県宇都宮市江野町7-13
プラザヒカリ 81F・5F
宇都宮ヒカリ座1・2・3
Tel.028-633-4445 / hikariza.news.coccar.jp